

通番	区分	テーマ	ねらい・概要	使用教材
1	I II	課題研究	研究深化	iPad 各種実験装置

時間	スライド	ファシリテーション・生徒の活動・留意点など
		<p><b>【実施方法】</b></p> <p>課題研究の基本的アプローチを以下に挙げる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題発見（生徒自身が経験したこと、不便に思っていること、興味があることなど身近な現象を題材に、可能な限り直接見て触ることができるものを対象にする。）</li> <li>・ 論文検索（googlescholar、CiNii 等を利用）</li> </ul> <p>自ら設定したリサーチクエスチョンに対して専門領域からどのようなアプローチがなされているかを調べ、さらに研究ターゲットを絞り込んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学外コンテスト、学会への参加</li> </ul> <p>研究は1年を通して行うので、研究内容についての専門家からの助言を得る機会や、コンテスト等の目標を持つことでモチベーションを維持していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員との面談</li> </ul> <p>教員面談は研究を進めていく中で重要な項目であり、生徒の自主性を尊重しながら段階に応じて助言を行いながら伴走していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究の計画性</li> </ul> <p>生徒の自主性は尊重しながらも、各回の課題研究で何を行ったか、また当日に何を行うのか、また現状の課題を自覚しながら進める必要がある。令和3年度は「桜メモ」という名称でロイロノートのカードを毎回提出する方法をとった。これにより、複数名で構成される班では、班員たちの役割分担や声掛けが行われるきっかけとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な発表会</li> </ul> <p>夏休み明け、冬休み明けの時期に 3/5 発表会、4/5 発表会を実施する。定期的な発表会により、計画の時間的な感覚が養われること、研究意欲の向上、発表スキルの向上、また外部からのフィードバックによる研究の深化、他班の発表を聞くことによる自身のスキル向上が見込める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アウトリーチ</li> </ul> <p>科学者の使命として、研究をより分かりやすく一般に広めるということから、youtube 等を利用して外部への配信も行う。</p>